

残暑御見舞い申し上げます。
お便りいただきながらすっかり御無沙汰いたしております。靴の状態が良く、又、冬場私の体調が悪かったりして御無沙汰いたしております。友人で膝の悪い人が多く、その度に私自身、膝も腰も今のところ快調なのも良い靴に巡り会えた為と、心より感謝いたしております。暑さはこれから、くれぐれもご自愛下さいませ。

6年半前に、「扁平足による後脛骨筋腱機能不全で手術を医師に勧められたが・・・」とご来店になりましたが、カスタマイズした靴や室内履きをご使用頂いているうちに、すっかり痛みがとれ、改善された方です。

足底板や補正靴の使用により、足・脚部のバランスが改善し、膝、腰へも良い影響が出ることは、私共が外向いている整形外科の患者さんの症例でも多く見られ、「予想以上の効果が見られる」とドクターからも評価を頂いています。

早速靴の修理していただいて有難うございました。大変きれいに下さり重ねてお礼申し上げます。一番最初の靴はいよいよだめになりましたが、十年間もはけて大変助かりました。靴にはある程度の重さがないと足のため良くないとわかりました。この靴でないと歩く時にとっても疲れてしまい、あらためてこの靴のありがたさを痛感しています。軽い靴はとて不安定で歩きにくいのが良くわかります。いつも感謝しています。くつべらも有難うございました。御礼まで。

修理をしながら大切に10年もご使用いただき、ありがとうございます。

健康のためにいかに靴が重要かを理解して下さり、私共もやりがいを感じます。

体を支えるためのしっかりした機能を持った靴は少々重くなりますが、正しく使用して頂ければ安定感があり、足にフィットして歩行は楽になり、かえって軽く感じられるのです。

大牟田に「相談室」がオープン

県立大学(田川市)に続いて、福岡県内に二つ目の「足と靴の相談室」がオープンしました。

前号でご紹介した福岡県立大学の「相談室」を担っておられる中藤先生と一緒に勉強された、大牟田市在住の田中隆基さんが中心になって始められた「足と靴の相談室ぐーぱ」です。

大牟田市は、「三井三池」で有名な炭坑の町として、筑豊・田川と同様、日本の近代化を支え、栄えてきた街でしたが、今では「旧産炭地」の例にもれず、かつての賑わいを想像させる立派な商店街も、多くがシャッターを降ろしたままという寂れようです。

田中さんたちは、「福祉でまちがよみがえる会」というNPO法人を運営され、「福祉」をキーワードに大牟田の街の活性化に取り組んでいます。その活動の一環の新たな取り組みとして「足と靴の相談」を開始しました。

事業の開始にあたっては、「市民の健康づくりの推進」の観点から「足に関するトラブルの予防・改善、健康の維持の普及啓発を市民運動的な視点から取り組む」との方向性のもと、「その拠点に中心商店街の空き店舗を活用することにより、市民の利便性と地域の活性化に寄与する」との目標を明確にして、大牟田市が創設している「まちづくり基金」の補助事業に応募し、その補助金交付第1号の事業に認定されました。

このような性格をもって開設された「足と靴の相談室」です。9月15日のオープン以来、多くの市民が訪れ、「足と靴と歩き方」についての正しい知識が大牟田から発信され始めました。

さらに田中さんたちは、この運動を広げていくためには、より多くの相談員の養成と、その技術のレベルアップが不可欠なため、福岡県立大学の協力を得て、「ぐーぱ」のオープンと並行して技術者の養成講座も開催しています。

田川の県立大学と大牟田の「ぐーぱ」の試みが、福岡発の「足の健康啓発運動」として前進することを願い、私たちができるだけの協力をさせて頂こうと思います。

